

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3146028号
(U3146028)

(45) 発行日 平成20年10月30日 (2008.10.30)

(24) 登録日 平成20年10月8日 (2008.10.8)

(51) Int.Cl.

F 1

G 0 9 F 15/00 (2006.01)

G 0 9 F 15/00 H

G 0 9 F 7/20 (2006.01)

G 0 9 F 7/20

A 4 7 G 1/24 (2006.01)

A 4 7 G 1/24

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号 実願2008-5820 (U2008-5820)
(22) 出願日 平成20年8月20日 (2008.8.20)(73) 実用新案権者 506304668
株式会社藤本印刷
山口県柳井市南浜一丁目3-18
(74) 代理人 100111132
弁理士 井上 浩
(72) 考案者 藤本 憲治
山口県柳井市南浜一丁目3番18号 株式
会社藤本印刷内

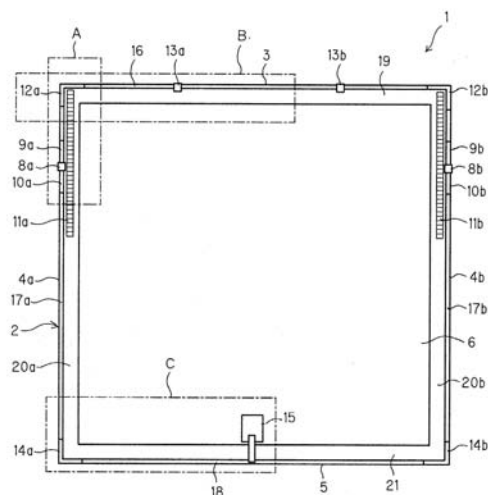
(54) 【考案の名称】 ポスターフレーム

(57) 【要約】

【課題】 掛止部材の位置調整が自在で、所望の位置に簡単に固定できるポスターフレームを提供することである。

【解決手段】 上枠3と、この上枠3の両端部と一の端部がそれぞれ連結する一対の側枠4a、4bと、これら一対の側枠4a、4bの他の端部と連結して上枠3と対をなす下枠5を備えて四角線形状に形成される枠部2と、枠部2に内接し四角面形状に形成されてポスターを支持する平板部6とを備えるポスターフレーム1であって、枠部2の一対の側枠4a、4bは、それぞれ、溝部17a、17bと、この溝部17a、17bをスライド可能な第1のフック8a、8bと、この第1のフック8a、8bの移動を抑制する抑止部材9a、9b、10a、10bと、第1のフック8a、8bの位置を示す目盛11a、11bとを有するものである。

【選択図】 図2



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

上枠と、この上枠の両端部と一の端部がそれぞれ連結する一対の側枠と、これら一対の側枠の他の端部と連結して前記上枠と対をなす下枠を備えて四角線形状に形成される枠部と、前記枠部に内接し四角面形状に形成されてポスターを支持する平板部と、を備えるポスターフレームであって、前記枠部の一対の側枠は、それぞれ、溝部と、この溝部をスライド可能な第 1 のフックと、この第 1 のフックの移動を抑制する抑止部材と、前記第 1 のフックの位置を示す目盛と、を有することを特徴とするポスターフレーム。

【請求項 2】

前記抑止部材はゴムで形成されることを特徴とする請求項 1 に記載のポスターフレーム 10

【請求項 3】

前記枠部の上枠は、溝部と、この溝部をスライド可能な少なくとも 1 個の第 2 のフックと、を有することを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載のポスターフレーム。

【請求項 4】

前記枠部の下枠は、前記一対の側枠に対して着脱可能に構成され、前記一対の側枠及び / 又は前記平板部に固定する固定部材を有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか 1 項に記載のポスターフレーム。

【考案の詳細な説明】

20

【技術分野】**【0001】**

本考案は、ポスターを固定して掲示するポスターフレームに関する。

【背景技術】**【0002】**

一般に、ポスターを保持して掲示するポスターフレームは、ポスターを面状に支持する四角形の平板と、ポスターの周部を支持する枠体を有した構造であり、枠体の一部又は全部を着脱してポスターの交換を行う。また、通常、ポスターフレームの裏面側にはフックや紐状体等の掛止部材が設けられており、壁面に設置される棒状体やフックに掛止して掲示することができる。しかしながら、このような掛止部材は一定の位置に固定されることが多く、位置調整が自在で且つ所望の位置に固定できるものはなかった。また、これまでのポスターフレームに関する技術においてもポスターの着脱時の作業性や保持状態の向上に関するものが多数であった。

30

【0003】

例えば、特許文献 1 には、「ポスターハンガー」という名称で、波打ったような皺を防止するポスターハンガーに関する発明が開示されている。

この特許文献 1 に開示された発明は、プラスチックで成形される裏面板と、この裏面板の上部に設けられるトップフレームと、このトップフレームの両端部付近に設けられポスターの上端部を両外側へ引っ張るクランバーとを備え、ポスターを裏面板上に重ね合わせるものである。

40

また、裏面板の上縁のトップフレームに対向して下縁にはボトムフレームが設置され、両横側にはそれぞれ 2 個のサイドフレームが設置されている。そして、裏面板とコ字形の両サイドフレームの溝によって形成される隙間に沿ってポスターを下側から上側に向けて裏面板上を擦るように挿入すると、プラスチック製の裏面板とポスターの摩擦によって静電気が生じ帯電により裏面板とポスターを密着させることができる。続いて、ポスターの上端部がトップフレームに当接したところで、トップフレームに設けられるクランバーを設置すると、クランバーによってポスターには外側に引っ張る力が作用し、ポスター上部に生じる皺を除去することができる。なお、ポスターの中央部に生じる皺は、手で外向きに擦るだけで容易に除去することが可能である。

また、トップフレームの裏面側には、側面形状がコ字形で下向きに開口するフックが設

50

けられており、雑誌ラック什器の横棒などに掛止することができる。

【0004】

また、特許文献2には、「ポスターフレーム」という名称で、ポスターの交換作業が簡単にポスターの中央部に生じる自重や変形による撓みを防止するポスターフレームに関する考案が開示されている。

この特許文献2に開示された考案は、底板と、この底板に隣接して形成又は貼着された低粘着膜とを有するものである。

詳細には、ベニヤ製の底板には、表面側にシリコンゴム等からなる低粘着層が積層されたポリエチレンテレフタレートフィルムが強粘着層を介してされており、最表面となる低粘着層の上にポスターを密着させていくと、ポスターは低粘着層と軽度に貼着され、撓みを生じることなく底板上に保持することができる。また、ポスターを交換する際には、引き剥がすだけでポスターは簡単に低粘着層から外れるので、従来のポスターフレームのように周りの枠体を取り外したり、取り付けたりする必要がなく、交換時の作業効率が極めて良好なものになっている。

【特許文献1】特開平10-105097号公報

【特許文献2】実用新案登録第3115986号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0005】

上述の従来技術である特許文献1に開示された発明は、ポスターに皺を生じさせないようにトップフレームにクランパーを具備したり、静電気を利用してポスターの密着性を向上させたりしているものであり、裏面側のフックについては、記載はあるもののその配置や位置調整に関する技術については特に開示されたり、あるいは言及等もされていない。

【0006】

また、特許文献2に開示された考案は、低粘着層を設けることによってポスターと底板の密着性を向上させたり、ポスターの交換時の作業性を向上させたりするものであり、特許文献1と同様に、裏面側の掛止部材の構成については開示や言及、示唆等もされていない。

【0007】

本考案はかかる従来事情に対処してなされたものであり、掛止部材の位置調整が自在で、所望の位置に簡単に固定できるポスターフレームを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記目的を達成するため、請求項1記載の考案であるポスターフレームは、上枠と、この上枠の両端部と一の端部がそれぞれ連結する一対の側枠と、これら一対の側枠の他の端部と連結して上枠と対をなす下枠を備えて四角線形状に形成される枠部と、枠部に内接し四角面形状に形成されてポスターを支持する平板部と、を備えるポスターフレームであって、枠部の一対の側枠は、それぞれ、溝部と、この溝部をスライド可能な第1のフックと、この第1のフックの移動を抑制する抑止部材と、第1のフックの位置を示す目盛と、を有するものである。

このような構成のポスターフレームによれば、上枠と一対の側枠と下枠は四角線形状の枠部を形成してポスターの周部を支持するように作用し、また、四角面形状の平板部はポスターを面状に支持するように作用する。そして、枠部の一対の側枠においては、第1のフックは溝部を自在にスライドして第1のフックの垂直位置を変化させ、また、抑止部材は第1のフックの移動を抑制して第1のフックの位置を固定し、そして、目盛は第1のフックの位置を数値化して定量的に明示するという作用を有する。

【0009】

また、請求項2記載の考案は、請求項1記載のポスターフレームにおいて、抑止部材はゴムで形成されるものである。

このような構成のポスターフレームにおいては、請求項1に記載の考案の作用に加えて

、ゴムで形成される抑止部材は、柔軟で滑りにくいという作用を有する。

【 0 0 1 0 】

そして、請求項 3 記載の考案は、請求項 1 又は請求項 2 に記載のポスターフレームにおいて、枠部の上枠は、溝部と、この溝部をスライド可能な少なくとも 1 個の第 2 のフックと、を有するものである。

このような構成のポスターフレームにおいては、請求項 1 又は請求項 2 に記載の考案の作用に加えて、枠部の上枠は、溝部を備え、第 2 のフックはこの溝部をスライドして水平位置を自在に変化させるように作用する。

【 0 0 1 1 】

また、請求項 4 記載の考案は、請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか 1 項に記載のポスターフレームにおいて、枠部の下枠は、一对の側枠に対して着脱可能に構成され、一对の側枠及び / 又は平板部に固定する固定部材を有するものである。

このような構成のポスターフレームにおいては、請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか 1 項に記載の考案の作用に加えて、枠部の下枠は、一对の側枠に対して外したり、着けたりが自在で、固定部材は下枠が一对の側枠に着けた状態のときに下枠が一对の側枠から外れないように固定するという作用を有する。

【 考案の効果 】

【 0 0 1 2 】

以上説明したように、本考案の請求項 1 に記載のポスターフレームにおいては、ポスターを枠部と平板部に支持させて、一对の側枠にそれぞれ設けられる溝部に掛合する二個のフックを棒状体などに掛止させると、壁面等に掲示することができるが、一对の側枠にはそれぞれ目盛が設けられているので、二個の第 1 のフックの垂直位置を簡単に等しくすることが可能で、ポスターフレームが斜めに掲示されるような不具合を防止できる。また、位置を決定したあとは、これらの第 1 のフックは抑止部材によって移動が抑制されるので位置ずれを生じることがない。従って、予め固定されている棒状体に対して、水平レベルを自由に変えることができると共に、その位置を固定することが可能である。

【 0 0 1 3 】

また、本考案の請求項 2 に記載のポスターフレームにおいては、抑止部材がゴムであり、柔軟であるので、取り扱いや交換が容易であり、また、滑りにくいのでフックの移動を効果的に抑制することができる。

【 0 0 1 4 】

そして、本考案の請求項 3 に記載のポスターフレームにおいては、上枠に溝部が設けられ、この溝部に掛合する少なくとも 1 個の第 2 のフックが設けられているので、側枠に設けられている第 1 のフックとは別個に、このフックを掛止部材として使用し、ポスターフレームを掲示することができる。あるいは、側枠に設けられている第 1 のフックでは届かない上方で固定が必要な場合にも利用が可能である。

【 0 0 1 5 】

また、本考案の請求項 4 に記載のポスターフレームにおいては、下枠が一对の側枠に対して着脱可能であるので、ポスターの挿脱は、下枠を外して行うことができる。また、下枠は固定部材を備えているので、一对の側枠又は平板部から外れることなく、枠部を確実に形成することができる。

【 考案を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 6 】

以下に、本考案の最良の実施の形態に係るポスターフレームを図 1 乃至図 6 を参照しながら説明する（請求項 1 乃至請求項 4 に対応）。

図 1（a）は、本考案の実施の形態に係るポスターフレームの正面図であり、（b）は図 1（a）中に X - X 線で示された部分の矢視断面図である。

図 1（a）において、ポスターフレーム 1 は、主に、四角線形状の枠体 2 と、四角面形状の平板 6 から構成されている。また、枠体 2 は、ポスターフレーム 1 の上縁となる上枠 3 と、この上枠 3 の両端部にそれぞれ垂直に連結される一对の側枠 4 a , 4 b と、上枠 3

10

20

30

40

50

と対をなし、一对の側枠 4 a , 4 b の下端部に対して垂直に設けられる着脱可能な下枠 5 を備えている。

また、図 1 (b) において、上枠 3 は、正面側に溝 7 を備え、背面側に溝 1 6 と接合部 1 9 を備えている。上枠 3 の背面側の詳細については後述するが、溝 1 6 はフック (図 2 に示す第 2 のフック 1 3 a , 1 3 b) がスライド移動するためのものであり、接合部 1 9 は平板 6 と接着剤等によって接着され、上枠 3 と平板 6 を接合するものである。また、平板 6 は、突起部 3 2 によって拘束、固定されており、平板 6 の表面に貼着されるポスターは、その端部を上枠 3 の正面側の溝 7 に挿入されて係止部材 3 1 との接触摩擦によって支持される。なお、図示していないが、上枠 3 以外的一对の側枠 4 a , 4 b 及び下枠 5 についても図 1 (b) に示す同様の断面形状を有している。

10

すなわち、ポスターの大部分は平板 6 に支持され、ポスターの四辺の端部は、上枠 3 に設けられる溝 7、一对の側枠 4 a , 4 b に設けられる溝及び下枠 5 に設けられる溝に挿入されてポスターフレーム 1 に保持される。

【 0 0 1 7 】

ポスターを挿入する場合は、まず、下枠 5 を一对の側枠 4 a , 4 b から外して、ポスターの両側部を一对の側枠 4 a , 4 b の溝に沿うようにしてポスターの上端部から挿入し、上枠 3 に向けて移動させる。そして、ポスターの上端部が上枠 3 の溝 7 に到達したらポスターの移動を停止し、下枠 5 を一对の側枠 4 a , 4 b に取り付ける。ポスターの下端部が下枠 5 の溝に合うようにポスターの位置を微調整すると、ポスターのポスターフレーム 1 内への挿入が完成する。逆に、ポスターをポスターフレーム 1 から取り出す場合は、下枠 5 を一对の側枠 4 a , 4 b から取り外し、ポスターの下端部を引き抜くことにより、ポスターはポスターフレーム 1 から簡単に取り出すことができる。

20

なお、本実施の形態においては、ポスターの表面を保護する保護板を設置していないが、ガラス板や透明なプラスチック板を用いた保護板を設置するようにしてもよい。あるいはもっと薄い透明フィルムなどを保護板として用いることで、それぞれの枠に設けられた溝に挿入が容易となる。

また、枠体 2 及び平板 6 には、ABS 樹脂や PBT 樹脂などの合成樹脂を用いると軽量のポスターフレーム 1 を形成することができる。但し、材料は、ABS 樹脂や PBT 樹脂などの合成樹脂に限定されるものではなく、アルミニウム等の金属を用いてもよい。

【 0 0 1 8 】

30

次に、本実施の形態に係るポスターフレームの背面側について図 2 を参照しながら説明する。

図 2 は、本実施の形態に係るポスターフレームの背面図である。

図 2 において、ポスターフレーム 1 の背面側は、図 1 (b) に示したように、枠体 2 が表裏で一体に形成されており、上枠 3、一对の側枠 4 a , 4 b 及び下枠 5 は、それぞれ、溝 1 6、溝 1 7 a , 1 7 b、溝 1 8 と、平板 6 と接合される接合部 1 9、接合部 2 0 a , 2 0 b、接合部 2 1 を備えている。

各部についての詳細な説明は後述するので、ここでは、簡単に概要を説明する。

まず、上枠 3 には、棒状体に掛止可能な 2 個の第 2 のフック 1 3 a , 1 3 b が溝 1 6 を水平方向にスライド自在に設置されている。

40

また、一对の側枠 4 a , 4 b には、棒状体に掛止可能な第 1 のフック 8 a , 8 b が溝 1 7 a , 1 7 b にそれぞれ垂直方向にスライド自在に設置されている。そして、第 1 のフック 8 a , 8 b には上下位置にそれぞれ第 1 のストッパ 9 a , 9 b と第 2 のストッパ 1 0 a , 1 0 b が溝 1 7 a , 1 7 b に嵌入されており、第 1 のフック 8 a , 8 b の移動を抑制している。さらに、接合部 2 0 a , 2 0 b には目盛 1 1 a , 1 1 b が設置されており、第 1 のフック 8 a , 8 b の位置を数値で定量的に把握することができる。もちろん、目盛 1 1 a , 1 1 b は予め水平位置を符合させて同じ目盛位置の箇所に第 1 のフック 8 a , 8 b を揃えることで水平を出せるようになっている。

そして、下枠 5 の溝 1 8 には平板 6 に設けられる第 2 の固定部材 1 5 の先端が着脱自在に掛止されている。

50

【 0 0 1 9 】

また、枠体 2 は組み立て式であり、組み立て前は上枠 3、一対の側枠 4 a、4 b 及び下枠 5 はそれぞれが分離している。したがって、組み立て時には、上枠 3 と一対の側枠 4 a、4 b の上端部の連結部分には、連結部材 1 2 a、1 2 b がそれぞれ溝 1 6 と溝 1 7 a、1 7 b に嵌入されて上枠 3 と一対の側枠 4 a、4 b を連結し、枠体 2 の強度を強化している。この連結部材 1 2 a、1 2 b はいずれも断面が凸形状で、溝 1 6 及び溝 1 7 a、1 7 b に嵌合するように形成されている。

一方、前述のとおり、下枠 5 は一対の側枠 4 a、4 b に対して着脱自在に構成されており、一対の側枠 4 a、4 b の下端部と下枠 5 の接続部分には、着脱可能な第 1 の固定部材 1 4 a、1 4 b がそれぞれ溝 1 8 と溝 1 7 a、1 7 b に嵌入されている。この第 1 の固定部材 1 4 a、1 4 b も連結部材 1 2 a、1 2 b と同様に断面が凸形状で、溝 1 8 及び溝 1 7 a、1 7 b に嵌合するように形成されている。

【 0 0 2 0 】

続いて、本実施の形態に係るポスターフレームの枠体の詳細について図 3 乃至図 6 を参照しながら説明する。

図 3 は、図 2 中の符号 A で囲まれた部分の拡大図である。

図 3 において、側枠 4 a の背面側には、溝 1 7 a と接合部 2 0 a が形成されており、溝 1 7 a には、フック挿入口 2 2 a が設けられており、また、このフック挿入口 2 2 a から挿入されて、溝 1 7 a を垂直方向にスライド可能な第 1 のフック 8 a が嵌合されている。この溝 1 7 a の構造も図 1 (b) に示される溝 1 6 と同様である。

そして、第 1 のフック 8 a の上下位置の溝 1 7 a には、第 1 のストッパ 9 a 及び第 2 のストッパ 1 0 a が第 1 のフック 8 a に当接して嵌入されており、第 1 のフック 8 a の移動を抑制して第 1 のフック 8 a の位置を固定している。これらの第 1 のストッパ 9 a 及び第 2 のストッパ 1 0 a はゴムで形成されており、柔軟であるので、溝 1 7 a に押し込むと、変形しながら容易に溝 1 7 a に嵌入することができ、また、滑りにくいので、第 1 のフック 8 a、8 b を用いてポスターを貼着したポスターフレーム 1 を壁面などに掛止した際でも、溝 1 7 a との摩擦によってストッパ自体の移動が抑止され、嵌合された位置を保持することができる。

また、接合部 2 0 a には溝 1 7 a に沿って目盛 1 1 a が設置されている。目盛 1 1 a は 1 c m 毎に点線が明示され、5 c m 毎に数値が記載されており、溝 1 7 a をスライド移動する第 1 のフック 8 a の位置を数値として定量的に認識することができ、例えば、図 3 においては、第 1 のフック 8 a は 1 5 c m の位置にある。なお、目盛 1 1 a の 1 c m の幅や 5 c m 毎の数値の記載は、これらに限定されるものではなく、ポスターフレーム 1 の大きさや掲示上要求される精度によって適宜変更されてもよい。

図示していないが、側枠 4 a と対をなす図 2 に示す側枠 4 b においても同様の構造が具備されており、第 1 のフックは第 1 のストッパ及び第 2 のストッパによって位置が固定され、また目盛によって位置を数値で表示するので、対をなす 2 個の第 1 のフック 8 a、8 b は溝において等しい位置に簡単に固定することができ、ポスターフレームを壁面などに掛止する際に、ポスターフレームが斜めになるような不具合を防止することができる。

なお、目盛 1 1 a は、裏面に接着剤を塗布したシール状のものを接合部 2 0 a に貼着しているが、目盛 1 1 a の形態は特に限定されるものではなく、例えば、接合部 2 0 a に直に印刷したりあるいは刻字するようにしてもよい。

【 0 0 2 1 】

次に、図 4 は、本実施の形態に係るポスターフレームの第 1 あるいは第 2 のフックの概念図である。

図 4 において、例えば、第 1 のフック 8 a、8 b であれば、一対の側枠の溝を垂直方向にスライド移動するものであって、スライド部 2 3 と掛止部 2 4 から構成されている。スライド部 2 3 は水平方向の断面が T 字形に形成されており、一対の側枠の溝に嵌合して離脱することなくスライドができるようになっている。このスライド部 2 3 の側面には貫通する紐用孔 2 9 が穿設されており、この紐用孔 2 9 に紐を通し、第 1 のフック 8 a、8 b

のみならずこの紐によってポスターフレーム 1 を掛止することも可能である。また、掛止部 2 4 は垂直方向の断面が U 字形に形成され、壁面等に設置される棒状体等に掛止できるようになっている。その際には、ストッパ 3 0 によって摩擦力を生じさせて外れを防止している。

第 2 のフック 1 3 a , 1 3 b も図 4 に示される第 1 のフック 8 a , 8 b と基本的な構造は同じである。

なお、第 1 のフック 8 a , 8 b 及び第 2 のフック 1 3 a , 1 3 b のいずれも紐用孔 2 9 については選択であり、設けなくともよい。そもそも第 1 のフック 8 a , 8 b は壁面などの棒状体の位置が固定されている際に、ポスターフレーム 1 の位置を柔軟に変更してディスプレイを容易にするためのものであり、紐はその長さを変えることで垂直方向位置は変更可能であるものの、紐が目に見えてしまい、ディスプレイの美観を損ねてしまうので、これを用いないようにするためのものだからである。

【 0 0 2 2 】

続いて、図 5 は、図 2 中の符号 B で囲まれた部分の拡大図である。

図 5 において、上枠 3 の背面側には、側枠と同様に、溝 1 6 と接合部 1 9 が形成されている。符号 2 2 はフック挿入口であり、第 2 のフック 1 3 a は、この挿入口から溝 1 6 に挿入されて、図示しないが、第 2 のフック 1 3 a のスライド部が溝 1 6 に掛合して水平方向に自在にスライドできるようになっている。溝 1 6 の構造は既に図 1 (b) を参照して説明したとおりである。

第 2 のフック 1 3 a を用いると、ポスターフレームは上枠 3 から吊設されるように掲示できる。なお、上枠 3 に設置される第 2 のフック 1 3 a , 1 3 b の設置数は特に限定されないが、上枠 3 の第 2 のフックのみを用いてポスターフレームを吊設するのであれば少なくとも 2 個設ける方が安定するので好ましい。一対の側枠に設置されるフックの補助として用いる場合は、1 個の設置でも十分であるし、また、特に設置しなくてもよい。

そして、本実施の形態では、重力を受けて垂直方向にずれを生じる可能性の高い第 1 のフック 8 a , 8 b とは異なり、第 2 のフック 1 3 a に対してストッパは設けていないが、第 2 のフック 1 3 a を挟むようにして 2 個のストッパを設けて、第 2 のフック 1 3 a の移動を抑制し、第 2 のフック 1 3 a の位置を固定するようにしてもよい。

【 0 0 2 3 】

次に、図 6 は、図 2 中の符号 C で囲まれた部分の拡大図である。

図 6 において、下枠 5 には溝 1 8 が形成されている。この溝 1 8 も図 1 (b) を参照して説明した溝 1 6 と同様の構造である。前述の通り、下枠 5 は一対の側枠に対して着脱が可能になっており、下枠 5 を一対の側枠に着けた際に、下枠 5 と一対の側枠及び平板 6 を固定するための二種類の固定部材が設けられている。一つは、符号 1 4 a で示される第 1 の固定部材である。第 1 の固定部材 1 4 a は、略 L 字状の嵌合部 2 5 とこの嵌合部 2 5 から延設される二個の把持部 2 6 , 2 6 を備えており、嵌合部 2 5 は、下枠 5 の溝 1 8 及び側枠 4 a の溝 1 7 a に掛合できるように断面が凸形状に形成されて、下枠 5 と側枠 4 a の接続部分においてに跨って嵌合されている。また、図示していないが、把持部 2 6 のいずれの先端にも突起が形成されており、これらの突起は、同じく図示していないが、側枠 4 a の溝 1 7 a 及び下枠 5 の溝 1 8 にそれぞれ穿設された嵌合孔に各々嵌合するように構成されている。第 1 の固定部材 1 4 a は側枠 4 a 側に位置する把持部 2 6 を引っ張って突起を嵌合孔から抜き、下枠 5 を下方に引っ張ると、溝 1 7 a に嵌合した嵌合部 2 5 が溝 1 7 a をスライド移動して、第 1 の固定部材 1 4 a の溝 1 7 a から外れて、下枠 5 が側枠 4 a から外れる。なお、図示していないが、側枠 4 a と対をなす側枠も同様の構造を有しており、下枠 5 の着脱においては、もう一方の側枠も側枠 4 a の場合と同様の操作をする必要がある。

また、二つ目の固定部材は、符号 1 5 で示す第 2 の固定部材である。第 2 の固定部材 1 5 は、平板 6 に固設される固設部 2 7 と、この固設部 2 7 から延設され、先端が下枠 5 の溝 1 8 に掛止可能な掛止部 2 8 を備えている。掛止部 2 8 を溝 1 8 に掛止させると、下枠 5 と平板 6 を固定し、逆に、掛止部 2 8 を溝 1 8 から外すと、下枠 5 と平板 6 の固定を解

10

20

30

40

50

除し、下枠 5 を取り外すことができる。

また、この第 2 の固定部材 15 は、固設部 27 によって背面から平板 6 を押すように作用するため、平板 6 とその平板 6 に貼設されたポスターの撓みを防止することが可能である。すなわち、撓み防止機能を備えた固定部材となる。従って、この第 2 の固定部材 15 の設置位置は、特に下枠 5 に限定することなく、上枠 3 や側枠 4 a , 4 b に設置してもよいし、その数も必要に応じて自由に増やしてよい。例えば上枠 3 と下枠 5 に設置したり、側枠 4 a , 4 b に設置したり、全ての枠に設置してもよいのである。

なお、本実施の形態においては、第 1 の固定部材 14 a 及び第 2 の固定部材 15 の両方を設置したが、いずれか一方のみを設置するようにしてもよい。

【0024】

このように構成された本実施の形態においては、一对の側枠にスライド可能な第 1 のフックを設け、掛止する位置を鉛直方向に自由に設定することができるとともに、目盛を具備しているので、第 1 のフックの位置を正確に決めることができるので、左右の第 1 のフックが位置ずれすることなく、ポスターフレームを水平に掲示することを可能にしている。

また、ABS 樹脂や PBT 樹脂を用いて形成しているので軽量化が可能であり、そして、組み立て式であるので、組み立て前はコンパクトとなり輸送が容易なものになっている。

【産業上の利用可能性】

【0025】

以上説明したように、請求項 1 乃至請求項 4 に記載された本考案は、一对の側枠に設置される一对の第 1 のフックの位置調整が正確且つ容易に行えるポスターフレームを提供可能であり、服飾販売店舗や飲食物を提供する店舗等においてディスプレイ用具として利用可能である。また、美術館や博物館あるいは図書館等、さらには一般家庭などでもポスターを掲示するニーズがある場所であればどこでも利用が可能である。

【図面の簡単な説明】

【0026】

【図 1】(a) は本考案の実施の形態に係るポスターフレームの正面図であり、(b) は図 1 (a) 中に X - X 線で示された部分の矢視断面図である。

【図 2】本実施の形態に係るポスターフレームの背面図である。

【図 3】図 2 中の符号 A で囲まれた部分の拡大図である。

【図 4】本実施の形態に係るポスターフレームのフックの概念図である。

【図 5】図 2 中の符号 B で囲まれた部分の拡大図である。

【図 6】図 2 中の符号 C で囲まれた部分の拡大図である。

【符号の説明】

【0027】

1 ... ポスターフレーム 2 ... 枠体 3 ... 上枠 4 a , 4 b ... 側枠 5 ... 下枠 6 ... 平板
7 ... 溝 8 a , 8 b ... 第 1 のフック 9 a , 9 b ... 第 1 のストッパ 10 a , 10 b ...
第 2 のストッパ 11 a , 11 b ... 目盛 12 a , 12 b ... 連結部材 13 a , 13 b ...
第 2 のフック 14 a , 14 b ... 第 1 の固定部材 15 ... 第 2 の固定部材 16 ... 溝 1
7 a , 17 b ... 溝 18 ... 溝 19 ... 接合部 20 a , 20 b ... 接合部 21 ... 接合部
22 a ... フック挿入口 23 ... スライド部 24 ... 掛止部 25 ... 嵌合部 26 ... 把持部
27 ... 固設部 28 ... 掛止部 29 ... 紐用孔 30 ... ストッパ 31 ... 係止部材 32
... 突起部

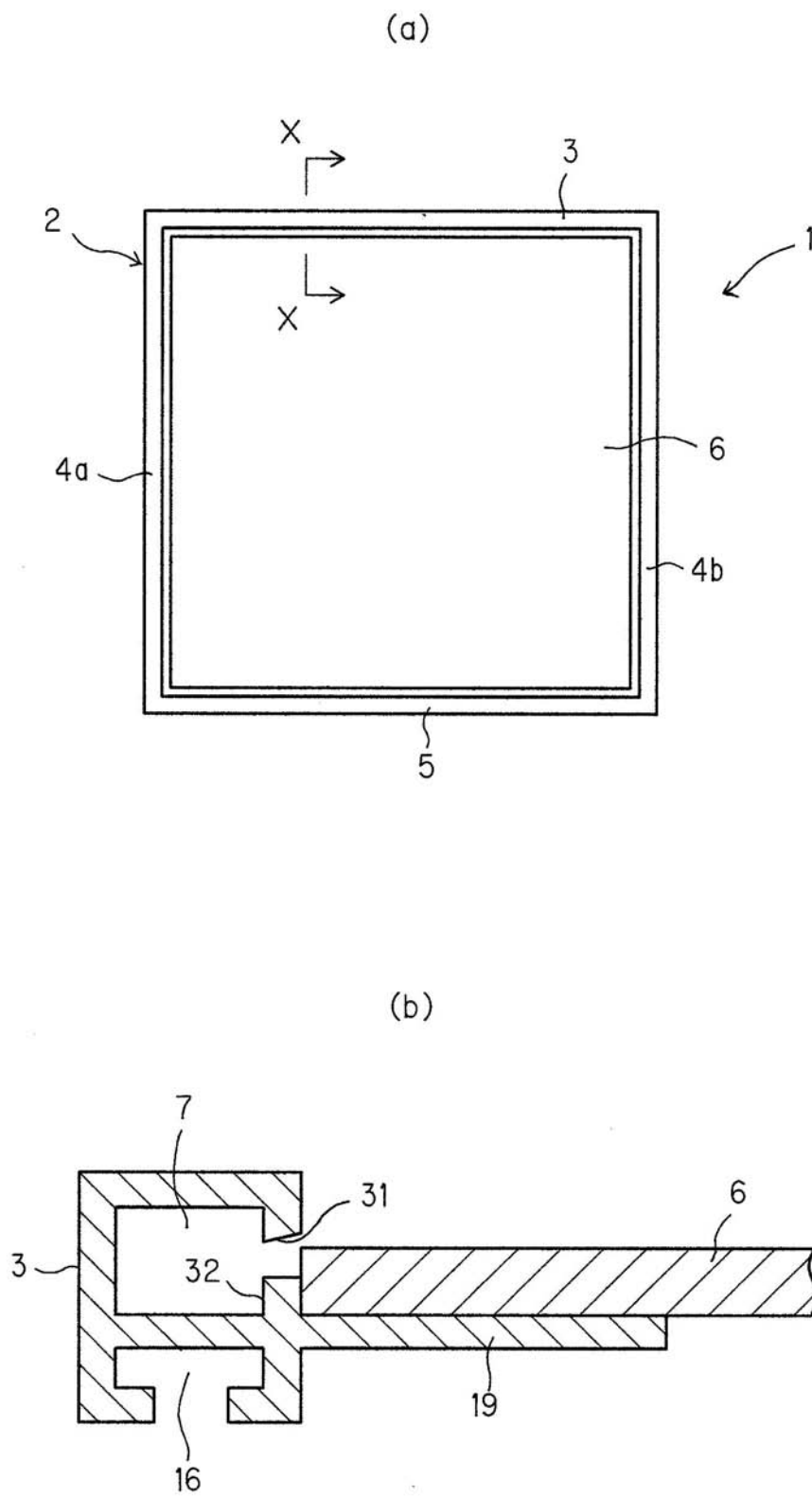
10

20

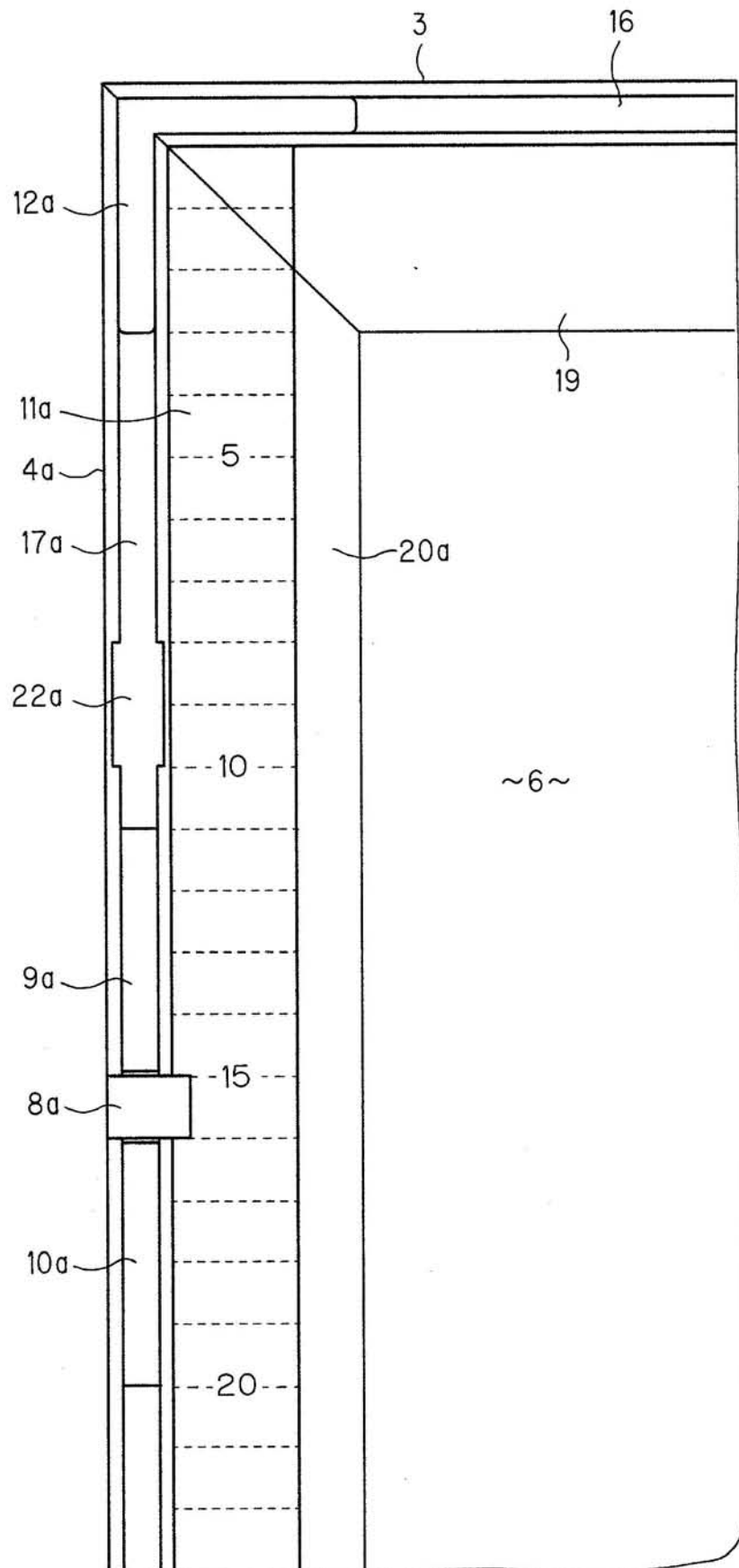
30

40

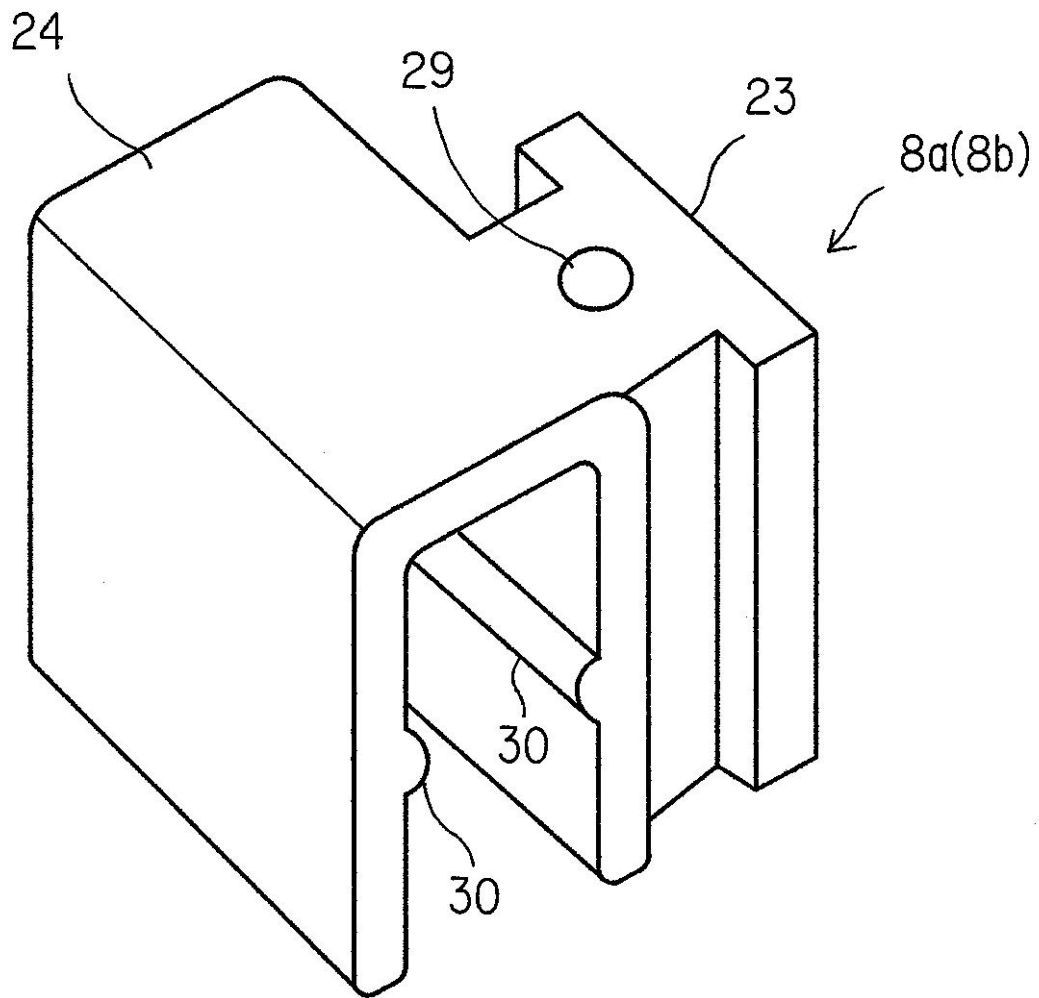
【図 1】



【図 3】



【 図 4 】



【図 5】

